

第6回ソーシャルファームジャパン サミット in 鹿児島

特定非営利活動法人 コミュニティシンクタンクあうるず
〒080-0802 北海道帯広市東2条南4丁目10番地

助成事業の概要

(1) 目的：タイトル「ソーシャルな街、ソーシャルな人」

(2) 実地日時会場

■開催日：

令和2年

2月15日 13:00～17:30、18:00～20:00

2月16日 9:00～12:00

2月17日 10:00～13:00

■会場：鹿児島大学郡元キャンパス

農・獣医共通棟（鹿児島市郡元1-21-24）

(3) 実地内容

◇1日目 全体会

【基調講演】

「ソーシャルファームがつくる世界の今、地域の未来～ソーシャルファーム元年を迎えて～」

ソーシャルファームジャパン理事長／恩賜財団済生会理事長 炭谷 茂 氏

【特別報告】 「東京のソーシャルファーム」

東京都議会議員 伊藤 悠氏

【シンポジウム】

東京都議会議員 伊藤 悠氏

公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会
参与 寺島 彰氏

ソーシャルファームジャパン理事長／恩賜財団済生会理事長 炭谷 茂氏

◇2日目分科会

○Session 1

「ソーシャルファームの働き方（農福連携+ノウフクだけじゃない!）」

報告者1：

秦泉寺弘氏（株南風ベジファーム 代表取締役）
「農福連携のこれからを考える ～持続可能六次化の取り組み～」

報告者2：

小島まな美氏（法務省矯正局更生支援室長）
「少年院・刑務所 × ノウフクの可能性～事例から見えてくるもの～」

報告者3：

川田勝也氏（株S3ブランディング代表取締役社長）
「農福連携六次化プロジェクトとSDGs」

ファシリテーター：藤原奈美（大隅くらし・しごとサポートセンター／センター長）

○Session 2

「ソーシャルファームのつながり方「豊かな社会」の実現のために」

報告者1：

永野隆文氏（エコネットみなまた専務理事）
「水俣病の教訓から生まれた企業組合～エコネットみなまたの実践」

報告者 2 :
森越まや氏 (ラグーナ診療所院長 / NPO ポラーノ・ポラーリ代表理事)

「日本で生かすイタリアの地域精神科医療」

報告者 3 : 丸尾亮好氏 (エル・チャレンジ理事兼事務局長)

「行政とつながるソーシャルファーム ー大阪エルチャレンジの実践」

報告者 4 : 福田久美子氏 (株)美交工業専務取締役)

「公共市場におけるソーシャルファームの実践」

ファシリテーター : 川畑善博 (株式会社ラグーナ出版代表取締役)

OSession3

「かごしまで、みんなで暮らす」

登壇者 1 : 大牟禮康佑氏 (株)ACG(あおぞらケアグループ) 代表取締役)

登壇者 2 : 近藤浩充氏 (株)インビクト代表取締役)

登壇者 3 : 高橋恭隆氏 (鹿児島保護観察所統括官)

ファシリテーター : 白澤繁樹 (ひふみよ株式会社代表取締役)

OSession4

「全国のソーシャルファームの事例」

報告者 1 : 岡元ルミ子氏 (ワーカーズコープ・センター事業団国分地域福祉事業所ほのぼの)

報告者 2 : 竹内良曜氏 (特定非営利活動法人コミュニティシンクタンクあうるず理事)

報告者 3 : 上田浩司氏 (社会福祉法人さつき会はまゆうワークセンター宗像施設長)

ファシリテーター : 上野容子 (東京家政大学名誉教授)

事業の成果

鹿児島サミットでは、スタッフ講師等も含めると 224 人が参加。

【1 日目】 全体会では、世界のソーシャルファームと日本のソーシャルファーム、東京のソーシャルファーム条例の報告を受け、日本での活かし方と次にすべき課題を明らかに出来た。特別報告においては、東京のソーシャルファーム条例についての発表。シンポジウムではより深い議論がおこなわれ、各参加者熱心に聞き入っている様子であった。

【2 日目】 4 つの Session に分けてテーマ毎に行われた。

Session1 は、「ソーシャルファームの働き方 (農福連携+ノウフクだけじゃない!)」。農福連携の実践者による報告、法務省からの視点によるノウフクの可能性の報告、スポーツやブランディング、SDGs の観点からのノウフクの可能性の報告の後、藤原氏のファシリテートで活発な議論が行われた。多岐にわたる議論が展開され、テーマどおり農福連携の可能性を深めることのできた良い議論であった。

Session2 は「ソーシャルファームのつながり方「豊かな社会の実現のために」と題し、川畑氏のファシリテートによって 4 名の報告者が人、地域社会、企業、行政との「つながり方」を報告し、それぞれが「持続可能で豊かな地域社会」実現のために何ができるのかを共有した。行動とつなが

りの楽観主義に立脚することで、行動がつながりに勇気を与えてくれることを感じる session であった。

Session3 は、「かごしまで、みんなで暮らす」と題して、実行委員の白澤氏を司会に報告が行われた。鹿児島県内を中心に働かされている登壇者の3名それぞれの立場の視点から「住」にスポットを当て、これからの未来で実現可能な鹿児島らしい「住」のあり方を提起した。1～4の中で一番ローカルな視点での議論がおこなわれ、主に県内の参加者が目立った。

Session4 は、「全国のソーシャルファームの事例」と題して、上野氏をファシリテーターとし議論がされた。北海道から九州までの登壇者による事例報告で、いかにして就労困難な人達の賃金を確保できるのか、新たな価値を創造していくのかという興味深い議論となった。市場との闘い方や地域でのソーシャルなニーズから生まれる事業、農福連携の事例など、参考になる議論であった。

【交流会】 1日目の夜に同大学にて、鹿児島の食材を使った懇親会を行った。125名の参加で会場は大いに盛り上がり、最後はソーシャルファームジャパン常任理事事務局長が挨拶。来年のサミットは条例のできた東京にておこなう旨が発表された。

特別講演やオプションツアーの関係で最後のまとめの全体会は行われなかったが、中身は多く充実しており、次の展開に向けての課題やモチベーションに繋がった会であった。

成果の広報・公表

成果については、ソーシャルファームジャパンサミット in 大阪の実行委員会特設ホームページ、及び Facebook にて随時公開。また、今回議員や行政関係者、大学研究者の出演や参加も多かつ

たことにより、各自の報告書や HP、Facebook などで報告もされている。

今後の展開

ソーシャルファームジャパンは 2008 年の設立以来、ニート、引きこもり、障害者、刑務所出所者、難病患者など多様な雇用弱者のソーシャルインクルージョンを目的として活動を始めたが、その後障害者にたいする各制度が制定され就労支援の形態が変化している。

当初はソーシャルファーム概念の普及をめざし、都内で勉強会・総会、北海道や各地で勉強会を行ってきた。

2013 年からは、全国普及活動として「ソーシャルファームジャパンサミット」を開催。北海道、滋賀、栃木、神奈川、大阪、鹿児島と展開し、今回で一通りのコンセプト普及活動としては北から南まで到達したこととなる。

第 3 回つくば大会から、制度への反映の声が高まり、推進議員連盟、自民党 PT、大阪府、東京都の取り組みが鮮明になり、昨年 12 月に東京都条例が制定された。来年度以降はソーシャルインクルージョンを定着する取り組みとして、東京都条例での取り組み、また大阪府での条例化など社会制度化をささえるソーシャルファーム活動の社会化をすすめる。また、社会的企業として良質な製品・サービスを提供し、市民が身近に感じられる「ソーシャルファーム」の拡大を目指す。